

## 第3回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成25年12月10日 18時45分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 23名（欠席16名）  
事務局 6名

### 1 会長あいさつ

本日はお忙しい中、12月第2週の気ぜわしい中、また、冷え込む中、お集まりいただきありがとうございます。

第3回の会議で4月以来の会議、皆さんには、地域または公の中での活躍のことと拝察いたします。

テレビ等でご承知とは思いますが、国政においては、経済再生、農産業の問題、外交の問題など、めまぐるしく展開している。こうした中で、安倍政権においては経済成長戦略を展開されており、期待される場所である。また、景気回復の兆しも報道されており、今後の動向に期待する。

光市においては、後期基本計画の推進に向けて、市川市長を中心に進めておられる。皆さんには、先日配布された政策工程表で、まちづくりの方向性などについてご確認いただいたと思う。市の取組みにも期待したい。

本日は、その進捗状況等について説明を受け、委員の皆さんから様々なご意見をいただき、予算編成に反映できればと考えている。

厳しい財政状況の中ではあるが、市長が唱えている「やさしさあふれる 「わ」のまち ひかり」を実現するため、市民の立場で行政の空白を補いながら、まちづくりを進めることが、お集まりいただいた皆さんの仕事であると感じている。

委員の皆さんのご理解、ご協力をお願いしたい。

### 2 議題

#### (1) 光市総合計画後期基本計画について

##### ・政策工程表について

事務局より説明ののち質疑意見等

- 委員：多くの項目が記載されており、一度に進めようというのは無理があると思う。優先順位を付けて絞り込んでいただき、今年度はこの項目を優先してやりたい、この項目は後にしたい、というように進めていただきたい。

一度に同じように進めるというのは難しい。重要度というものをどの様に考えるのか。

- 事務局：全体的に多くの項目で判断しづらいというお話であったが、この会の主な目的が、計画の策定と計画の進捗状況の検証とされている。

基本的には、後期基本計画の中のすべての事業について評価・検証を行っていくが、膨大な数であり、指標だけでも 163 あり、市行政としては全ての項目を同時に実施していかなければならないが、その中でも、総合計画に掲げたように「7つの未来創造プロジェクト」を中心に重点的に実施していくとしている。また、本日説明したように、市長公約の中のひとつ「将来への礎の創造」、いわゆる市行政の改革を加えた 8 本を、中でも重点的にやっていきたいと整理している。

そうした中での見方とすれば、個々の事業が良いか悪いかという点についてのご意見もいただきたいが、それぞれの部署においてこの協議会のような市民会議を設けているものもあり、その中で事業の詳細について毎年度意見をうかがいながら検証をしているものもある。この場は、市政全般を総括するまちづくり市民協議会ですので、ざっくりと概括していただいて、7つの分野において「少し進捗が悪い」とか「ここをもう少しやったらどうか」など、少し大きな視点からのご意見がいただければと考えている。その点から言うと、6 ページの「総括表」の中から、単純に「67%と低いがどうか」とか、8つの項目の中で「ここはどうなっているのか」など、ご意見をいただければと思う。

#### ・掲載事業説明（抜粋）

事務局より説明ののち質疑意見等

- 委員：先程、重点的にという話をしたが、今の説明のように「こういうことをしてきました」と抜粋で説明いただいた。抜粋でご説明していただいたようなことが資料の中で分かるように表示していただければ分かりやすい。そういうことを伝えたかった。（意見）

- 委員：今の発言と関連するが、これだけの分厚い内容をピックアップしながら説明を受けたが、私どもは素人であり、追っていただけで一生懸命である。そういう意味では、資料送付のときに、できれば「会議でどれとどれを説明する」とチェックを入れておいていただければ説明もよく聞けると思う。何ページ、何ページと紹介されても、追っていただけで精いっぱい。

せつかく皆さんに集まっていただく機会を設けられたので、ただ専門的に事業を羅列したのではないという進め方をお願いしたい。（要望）

- 事務局：多くの分野からそれぞれの専門の方にご参加いただいている。いくつかピックアップしてご説明したが、そこだけをやっているのはいけない。難しい説明もしたが、全部に関して全員からのご発言をいただくことは難しいと思う

ので、ここにお示ししている中で、ざっくばらんに気になることについて、たまたま  
で構わないので、それぞれの分野においてでもかまわないので発言いただきたい。ま  
た、他の分野、年齢の皆さんの意見を吸収しあっていただいてもよいと思う。  
ご発言いただければ、その内容について内部で検討もするし、この会は市全体を総括  
する会でもあるので、各所管にもこうした意見があったということは伝える。  
専門で専門外のことで結構なので、思いついたことについてご発言いただきたい。

●委員：毎月広報が出されるが、市民の方がどの程度読んでおられるのか知りたい。そ  
ういうアンケートを取ってもらってもいいと思う。家庭の中で何人読んでいるかとい  
うことは必要ないが、市政に対して市民がどれだけ注意深く見守っているかというこ  
とに対しての一番の評価としては、市で一生懸命に作られている広報をどの程度の人  
が読んでいるか、どれだけの方が活用してくれているか、どれだけの方が理解してく  
れているか、重要だと思う。

●事務局：政策企画部で出しているが、永遠の課題である。見てもらえないのではない  
かなどと考えつつ作成し、モニターの方や、市民特派員の方などの意見を聞きながら、  
例えば特集記事などは特派員の方々がそれぞれのテーマを決められ、記事を作られた  
りしている。また、色々な場所で色々な催しがあったりするなどでお知らせコーナー  
がどうしても多くなってくる。

こうしたことも含めて、色々なご意見をうかがう必要もあると考えているので、ただ  
今のご意見はしっかりと承る。

せっかくの機会なので、広報を、斜め読みでもよいので見ていただいている方、挙手  
をお願いしたい。

《委員全員挙手》

ありがとうございました。

広報の職員が走り回って作成しているが、限られた紙面の中で色々とお知らせしてい  
かなければならない。見ていただく中で「ここが見にくいぞ」というようなことがあ  
れば言っていただきたい。

●委員：10 ページにある、市民との協働の実践ということに関して、日ごろ感じている  
ことを申し上げたい。

たくさんが事業が実施されているが、こういう内容について住民の皆さんが身近なと  
ころから色々な課題を見出しながら話し合いを進めて、その解決のためにこれだけの  
事業が組まれているので役に立っていると思う。地域づくりの交付金が地域に出され  
ており、各種講座というのがあるが、この講座の中に地域づくりに関するテーマを掲  
げて関わっていければいいと思う。

自治会のお世話をしているが、道路が崩れたりしているときに素早く対応いただける。

法面についても同様。自分たちが知らないことも多いので、色々な問題に対して対処が考えられていることについて、住民も理解が必要と思う。(意見)

- 委員：コミュニティの関係で、平成 24 から 25 年まで市民懇話会を 5 回開催している。8 月で終わっており、9 月末で素案ができる予定であったが、そろそろ 12 月末で進んでいない。市民懇話会の委員は 8 月末で案を出した。まとめの段階で遅れているのではないか。行政で素案を 9 月に出されて、最終案を 12 月、3 月議会に出されるという状況と思う。

3 月議会はずらさないで、色々検討した結果が出てこない。基本方針が出来上がって、平成 26 年の 4 月から各地域で進めていくとのことであったが、その後どうなっているか。

- 事務局：具体的な策定の状況と今後の議会への説明やパブリックコメントのスケジュールについてのご質問であるが、今時点では把握していない。間違いがあってもいけないので、確認のうえ、ご報告したい。

- 委員：もう 1 点、広報の件で確認したい。57 ページである。

行政においては「実質公債費比率」が重要な指標と思うが、これまでは「経常収支比率」も広報に掲載されていたが、いつの間になくなった。自分でインターネットで調べてみると、光市が山口県で比率が一番悪くなっている。悪くなったから隠したのか。13 市でビリである。実質公債費比率は 8 番目である。

経常収支比率が、どういう状況でこのように悪くなったのか。ご説明願いたい。

- 事務局：経常収支比率について、悪くなったから隠したという思いは無い。決算の報告の中には、国から示された健全化の判断のための 4 つの比率を掲載している。

経常収支比率は前からあるもので、経常的に入ってくる収入、市税や交付税に対して、経常的に出るお金、道路を作ったりの建設経費でなく行政運営のために一般的に必要な費用がいくらなのかを比較するもの。経常的に入ってくるお金に比べて経常的に出ていくお金が多いということは、財政が硬直化していて、自由に使えるお金が少ない。どの様に自由に使うかといえば、道路を作ったりの投資の費用であったり新たな補助制度を設けるなどである。

我々が「財政の硬直化が進んでいる」という言葉を使っているが、そういうことである。光市においては、一時 100 を超えていた時期がある。これは、経常的に入ってくるお金がそのまま出ていくということであるので、理論的には自由に使えるお金がないということになる。

確かに光市の数値は県内でも高い方であるが、なぜ高いかということについては色々な理由があるのだが、市の特性として補助費として病院への繰出しがあるとか、消防に対する繰出し、下水道に対する繰出しなど、固定的な繰り出し金が多いということが大きな理由である。

今、数字の確認をしたが、光市の数値は 97.4 である。理論的な数値ではあるが、県内でも高い所に位置している。

決して隠しているとの意図はなかったが、確かに、広報では、他の市町村との比較ができるように 4 つの指標を中心に出している。経常収支比率は、ホームページにも掲載しているし、悪い数値であっても公表している。

広報への掲載について、経常収支比率は重要な指標でもあるので、掲載の必要について検討させていただきたい。

●委員：26 ページに「26 年度までにすべての小中学校をコミュニティスクールに指定する」とあり、浅江中は既に指定されていると思うが、コミュニティスクールにすることによって学校に、特に生徒にどのような変化があったのか。また、それを数字的に表すことができるのか、わかれば教えていただきたい。

●事務局：実際の反応等について、詳しくは知らないのですが、所管において整理をしてお答えしたい。

●委員：7～8 ページに「市民満足度改善指標」があるが、前年度に比べると本年度の指標がおおむね悪くなっている。これは、市民が思っていることと行政が思っていることにズレがあるからだと思う。B・C はまあまあだが、D だったらテコ入れがいるのではないかなどを総括的に考えた方が良いのではないかと思う。

次に、11 ページの公民館自主運営の支援についてずっと矢印が続いているが、公民館の自主運営について、どこまでを市が考えているのか。現在、支援センターが間に入ったりしているが、実際的には自主運営とはいえないと思う。自主運営というのは、自分で稼いできて自分で使って家計を成り立たせる、これが自主だと思う。だから今のままでは自主運営ではないと思うが、行政がどこまでやって自主運営というのか聞きたい。

次に、先程から協働という言葉が出ているが、この協議会のメンバーはどの程度までまちづくりということに関わっているのだろうか。この協議会に対して私が思うのは、光市がやさしく輝き、住みたい街になるためにはどうすればよいかということをもっとフランクに話し合えるような協議会であってほしいと思う。

最初の質問については、方向性が異なるのであれば、見直しも必要ではないかということをお願いしたかった。これらについて簡単でよいので教えていただきたい。

●事務局：市民満足度の推移についてのお尋ねについて、確かに言われるようにここが D ランクであれば考えなければならないということである。今回この様式でお示ししているように 4 年前の数値と比較している中での増減を示している。平成 24 年度については、前回の市民アンケートの結果でもお示したように 23 年年度に比べて軒並み下がっている。原因はつかめないままであるが、現在集約中の 25 年度のアンケートにお

いては、上昇傾向にあるようであると、一部報告を受けている。

色々な世相等の反映もしながら満足度が変わっていくと考えているが、市長においては、「最終的な利潤やアウトカムを測る指標としては市民の満足度である。」と明言しているので、これが少しでも上がるように努力しないといけないし、平均的に上がっている中でも上がりの少ないものについては注視をしながら検討するなど必要である。

満足度については所管に示す中で、満足度の低下している項目についてはチェックしながら次の段階に進んでいくこととしている。我々も市民の意思として重要視している。

自主運営について、現在、地域づくりに関して基本方針を策定中である。これを策定する中で公民館の自主運営について再整理をしている状況であろうと思う。11 ページのように単純に線が引いてあるだけで何をしたいのかがわからないとのご意見であるが、行政としては一定程度自主運営がされた中での総括もしていくと聞いているので、そういうものもお示ししながら、次の目標等については一定のものがお示しできると思うし、そういったものが地域にフィードバックされながら次の段階に進むものと考えている。こういったご意見については、担当部署の方に伝えるし、我々においても考えながら進めたい。

次に、もっとフラクにとのことや、会の位置付けについてのご質問であると思うが、市民協議会には大きく 2 つの役割がある。ひとつは、計画を作る、また、基本構想を作る中で、策定する段階においては、連日連夜という形で皆さんに集まっていただき、例えば市内巡りをしてみたり、小さなグループに分かれてワーキングをしたり、色々な形でその中で自分が思うまちづくりについてご提言をいただいて、その結果が計画になっている。この作業は充実感もあるし、我々も皆さんの意見が聞きやすい。

その後は、この計画に基づいて 5 年間動いていくことになる。出来てから 5 年間は、市民の皆さんと一緒に作ったこの計画が、計画どおりに動いているかチェックを行うこととなる。

今後のことは未定ではあるが、28 年度までしか計画がないので次期構想の策定が 27・28 に本格化してくると考えるが、その段階においては今までの検証も踏まえて、皆さんの意見を踏まえて叩き上げていくこととなる。それまでの間は、作り上げたものが計画どおりに進められているのかどうか、また、実践するために皆さんが先頭に立って、それぞれの分野や会に戻って取組んでいただく、その中でやりにくい部分等があれば会議の中で言っていただければ、改善が可能なものについては改善をしていくというのが大きな流れである。

ご提言も踏まえて、熱心にご協議がいただけるようなことに関して、引き続き検討してまいりたい。

●委員：わかりやすくご説明いただいた。自分は、最初の策定段階に関わっていなかつ

たので、よく知らなかった。

### 3 報告

#### (1) 平成25年度市民アンケートについて

#### (2) 市民対話集会について

事務局より説明

- 委員：市民対話集会の一般の参加人数について、職員や報道を含めた参加人員に比べると、比率が低いと思う。一般参加者の方が多くなければいけない。ということは、やはり市政に関する関心度が低いということに繋がると思う。

市民アンケートについても回収率が50%を切っている。言い過ぎかもしれないが、半分は無駄にしていると言っても過言ではないと思う。

市政に対して、「みんなをよくして行こう」という形をどうやって取って行ったらいいのか、また、対話集会にしても皆がたくさん出てこれるように、そうした比率を上げないと良い政策は出来ないと思うし、市長が思われていることの実現には遠いのではないかと思う。

- 事務局：厳しいご指摘をいただいたが、それでも市民の皆さんの声は聞いていかなければいけない。出来るだけ皆さんとお話をして、厳しい意見も聞いていきたい。参加率が上がるように、参加者が増えるように努力していきたい。なお、これまでは、5年に1回しか対話集会を実施していなかったが、毎年毎年やれば出席者は減ってくる傾向はあると思う。

未定のことではあるが、いずれ次期総合計画を策定する時期には、全地区を回って実施することとなると思うが、市民協議会の皆さんと一緒に市民の皆さんの意見を聞いていきたいと考えている。

市民アンケートについては、「なぜ回答率が低いのか。」と、議会からも同じ質問を頂いている。これについても、毎年実施していれば率は下がってくるようで、毎年聞いている市は回答率が下がる傾向にある。

そうは言っても、これが大事な指標にもなるし、辛らつな意見、個別の意見も沢山出ているが、それらが次のステップに繋がるものとなると考えている。

引き続き率の向上に向けて努力をするが、委員さんにおいても市民対話集会の際には数人の人でも引き連れて、何か言ってやという気持ちで参加いただければと思う。

### 4 その他

次回の協議会は、来年3月に開催したいと考えている。

議題については、先ほど概要をご報告した「市民アンケート」と「市民対話集会」、及

び、毎年度3月に作成している「行動計画」を考えているが、3件すべてとなるとボリュームもあるため、少し整理させていただき、開催について決定次第、ご案内させていただきます。

終了 20時35分